

心理学の基礎<1>

第九回 性格

担当／浜村 俊傑

本日の授業内容

1. 前回の復習
2. 本日の目的と到達目標
3. 特性理論
4. 社会認知理論

前回の復習

フロイトの理論（精神分析）

- ◆無意識が存在する
- ◆性的・攻撃的本能が存在し、イド、自我、超自我の働きにが人のパーソナリティを決定している
- ◆心理・性的発達段階（生後約12年）でパーソナリティが固定される
- ◆防衛機制／本能を抑圧することで現れる行動パターン

アドラーの理論

- ◆人は劣等コンプレックスをもつ
- ◆問題への対処や出生順位のパーソナリティへの影響

特性理論

特性 (trait)

- ◆行動の特徴的パターンや感情・行為の素因となるもの
- ◆例／リンゴは①大型か小型か②赤いか緑か③甘いか酸っぱいか

類型論 (typology)

複数のカテゴリから分類する
例／ヒポクラテスの体液（多血質，粘液質，抑うつ質など）
例／ユングの態度と機能の分類（外向性直感型など）



特性論 (trait theory)

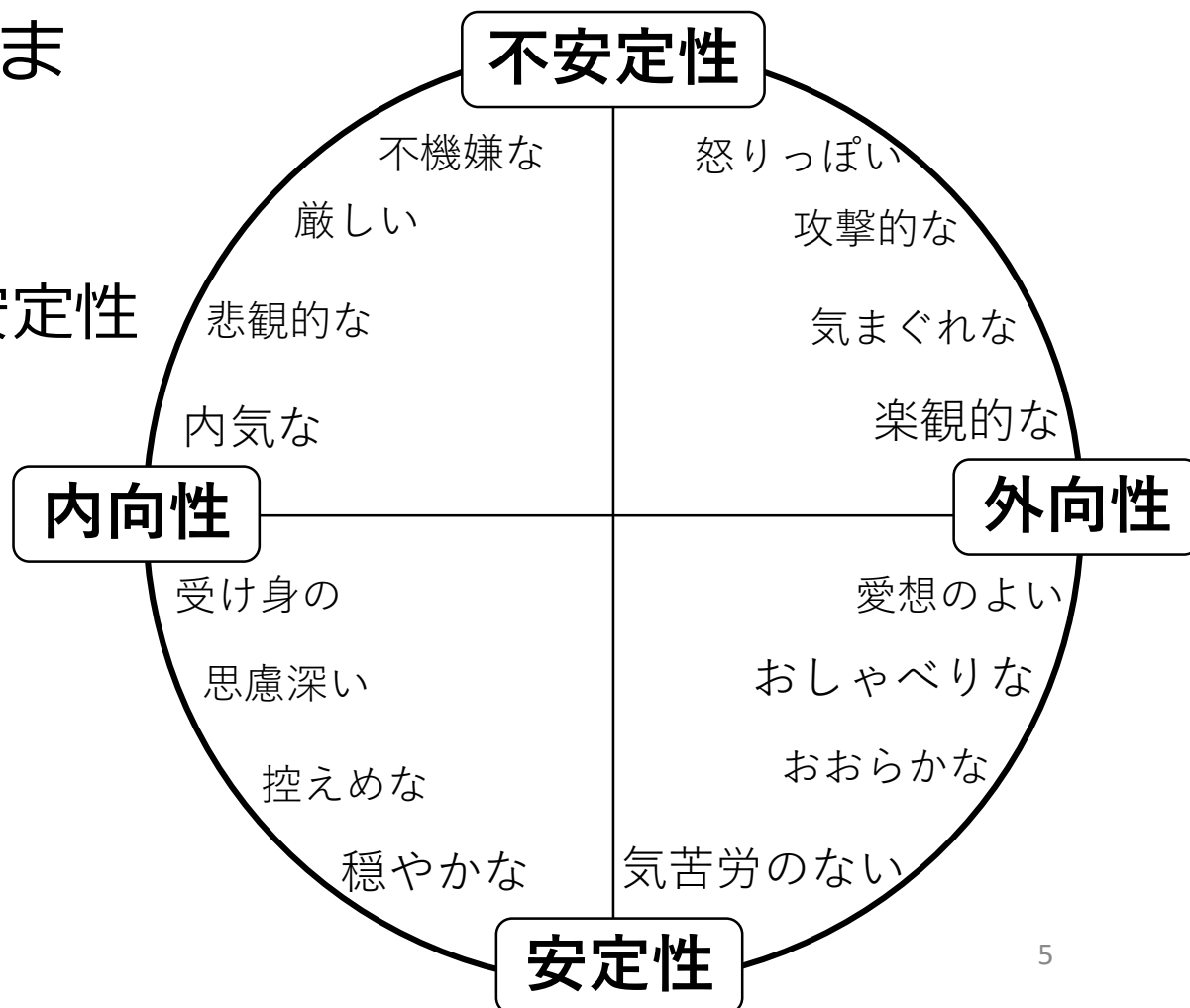
色々な軸でパーソナリティを捉える
例／アインゼングの性格理論
例／Aさんは外向性よりで安定性より。Bさんは外向性よりで不安性より

特性理論

アイゼングの性格理論

◆人の個人差は2次元でまとめられる

- 外向性－内向性
- 情緒安定性－情緒不安定性



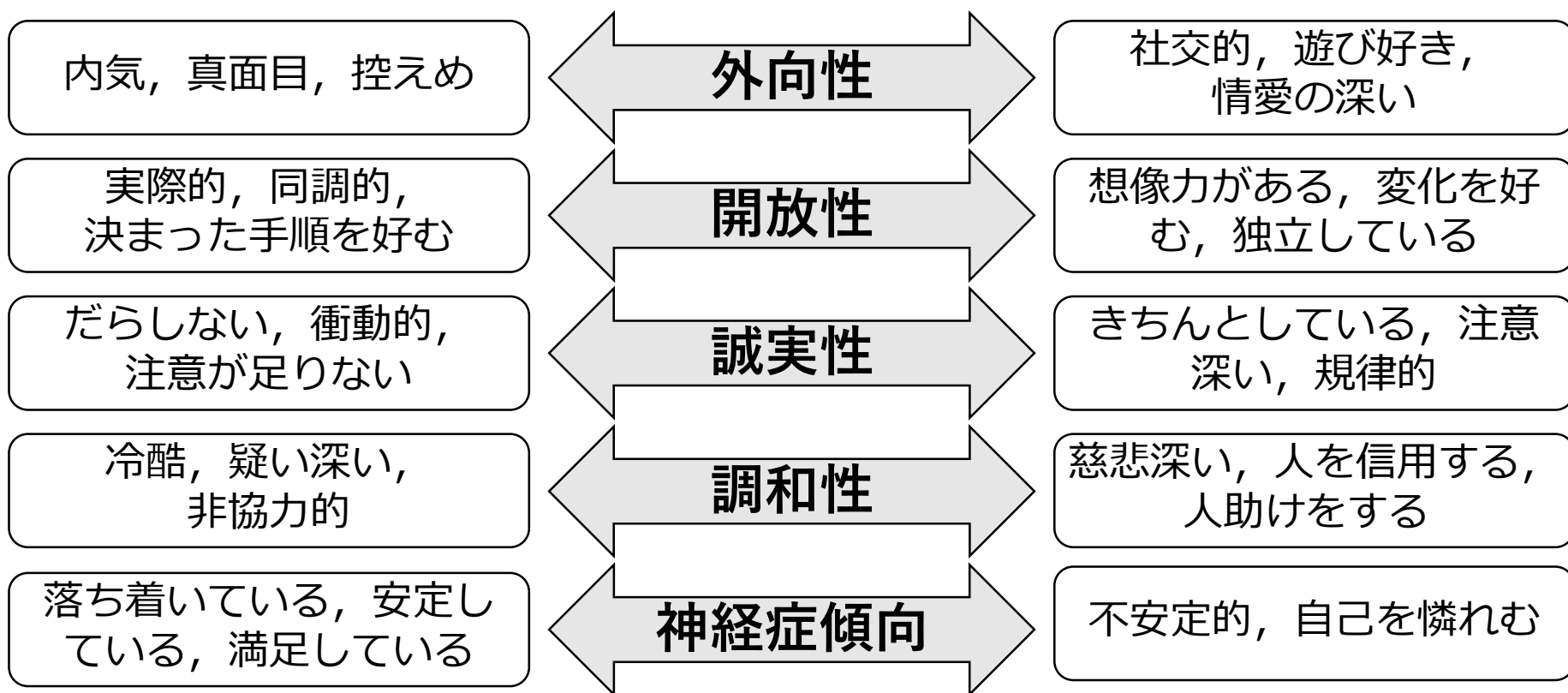
特性理論

Big Five因子

- ◆現在の心理学において最良の特性次元
- ◆アインゼングの2次元だけでは不十分と考えられ
5つの因子まで拡張された
- ◆**外向性，開放性，誠実性，調和性，神経症傾向**
- ◆遺伝率は50%ほど（Yamagata et al., 2006）

特性理論

Big Five因子



特性理論

特性の査定方法

- ◆ 質問紙調査を主に使用
- ◆ 質問紙は人格目録（Personality Inventory）と呼ばれる
- ◆ 質問紙の例
 - Big Five尺度（和田, 1996）
 - ミネソタ多面的人格目録（MMPI）
 - 500項目ほどの質問項目
 - 心気症, 抑うつ, ヒステリー, 男性性・女性性, パラノイア, 神経衰弱, 統合失調, 軽躁, 社会的内向

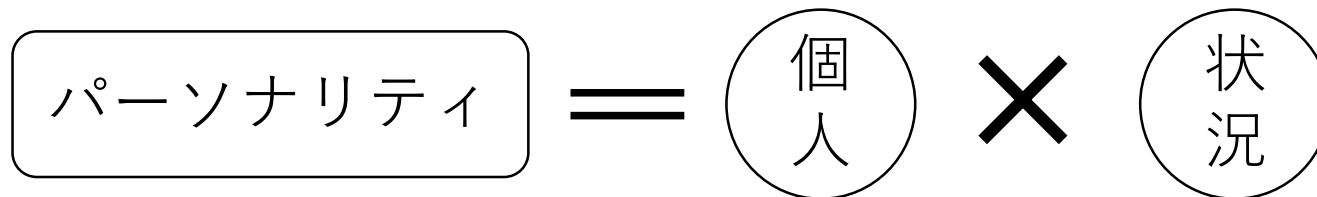
社会認知理論

社会認知理論 (social-cognitive theory)

◆特性と状況の相互作用でパーソナリティが決まる

◆相互決定論 (reciprocal determinism)

- 行動, 内的個人的要因, 環境の影響, これらはすべてお互いの決定要因として連動してはたらく (Myers, 2015)



社会認知理論

相互決定論によるパーソナリティの形成

生物学的影響

- 遺伝子に決定づけられた気質
- 自律神経の反応性
- 脳活動

心理学的影響

- 学習性の反応
- 無意識の思考プロセス
- 期待と解釈

パーソナリティ

社会文化的影響

- 幼少期体験
- 該当状況の及ぼす影響
- 文化的期待
- 社会的支援

社会認知理論

相互決定論の例

1. 人それぞれ異なる環境を選ぶ
 - 例／通う学校, 付き合う友達, 観るネットの内容
2. パーソナリティによって, 出来事をいかに解釈し反応するかが変わる
 - 例／不安が高い人=世界は脅威的と考え, 防衛的行動が増える
3. 自分のパーソナリティによって, 周囲の状況が作り出され, それに自分が反応することになる
 - 例／自分が相手を攻撃する。相手が自分に仕返す（または回避する）。自分の振舞い方もまた変わる

社会認知理論

パーソナルコントロール

◆自分が環境をコントロールできているかという認識

統制の所在 (locus of control)

◆自分にどれほどコントロール感があるかを示す信念

◆外的な統制の所在

- 自分の運命は外的な力によって決まる

◆内的な統制の所在

- 自分が自分の運命をコントロールしている

社会認知理論

帰属スタイル (attributional style)

◆物事の因果を自分に向けるか，他人に向けるか

- 統制の所在=コントロール
- 帰属スタイルは=良し悪しの結果が自分か他人か

◆楽観主義

- 良い出来事を自分に帰属する
- 例／恋人との関係で，建設的な関係は自分が築いている→お互いに思うことで不和が解決に至る

◆悲観主義

- 悪い出来事を自分に帰属する
- 例／テストで悪い点数を取ったのは能力不足だからだ

◆過度な楽観主義は逆効果（リスクに気づかない）

社会認知理論

学習性無力感 (learned helplessness)

◆有害なできごとを避けることができない場合、無力感と受動的なあきらめの気持ちを学習すること

◆例（実験）

- 犬に電気ショックを与え続け、回避不可能な状態にした。その後、別の回避可能な場所において電気ショックを与えるとうずくまってままだった

◆例（現実場面）

- 絶望感を感じている人が何も試さない

社会認知理論

パーソナリティの測定の仕方

- ◆現実的な状況での行動観察
- ◆例／米国陸軍が第二次世界大戦でのスパイ作戦
 - 筆記試験ではなく、問題解決、尋問への忍耐、リーダーシップなどの能力を試した
- ◆例／就活のグループワーク役割
 - 他人とのコミュニケーション、グループとしての成果
- ◆アメリカのトップ500の企業はこのような方法を採用試験に取り入れている（Myers, 2015）

まとめ

◆ユング

- 類型的な考え
- 2つの態度と4つの機能=8種類の性格に分類できる

◆特性論

- 類型ではなく、次元でパーソナリティを捉える
- アインゼングの性格理論／外向性－内向性，安定－不安定（2次元）
- Big Five尺度／外向性，開放性，誠実性，調和性，神経症傾向

◆社会認知理論

- パーソナリティは自己と環境の相互作用で形成される
- 統制の所在=自分にどれほどコントロール感があるかを示す信念
- 帰属スタイル=物事の結果をどこに因果づけるか

引用文献

Myers, D. (2015). Psychology. New York: Worth Publishers (1 (マイヤー, D.G. 村上郁也 (監訳) カラー版 マイヤーズ心理学.西村書店.)

Yamagata, S., Suzuki, A., Ando, J., Ono, Y., Kijima, N., Yoshimura, K., ... & Livesley, W. J. (2006). Is the genetic structure of human personality universal? A cross-cultural twin study from North America, Europe, and Asia. Journal of personality and social psychology, 90(6), 987.

和田さゆり. (1996). 性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成. 心理学研究, 67(1), 61-67.